

[metaChart]

設定ファイルの書き方

[metaChart]は paperChart のための解釈機械(interpretive machine)です.
paperChart は[metaChart]によって解釈実行される仮想機械記述ファイルの集合体です.

設定ファイルの文法に関しては「設定ファイルの文法.pdf」をご覧ください.
メニューファイルの書き方と MA2.exe の使い方は「メニューファイルの書き方.pdf」をご覧ください.

● フォルダの説明

ADM	薬剤メニュー、週間予定表、病名メニュー、術名メニュー、人名メニューなど、いわゆる“XX マスター”ファイル。
BIN	実行コマンドファイルの置き場所。
CONF	各種設定ファイルと画面表示用ビットマップファイル
DATA	麻酔記録データファイルの置き場所。
LOG	動作記録や一時ファイル。

● 設定ファイルの種類

設定ファイルは全て CONF フォルダ内に置かれています。設定ファイル本文と読み比べながら、本書をお読みください。

dircnf.txt:	各種のフォルダの所在や起動コマンド名などを指定します。
dspcnf.txt:	NV.exe(麻酔記録表示ソフト本体)の画面書式設定。
parcnf.txt	自動収集される各種数値パラメータと、そのプロットの時間間隔に関する設定。
dmgcnf.txt	患者属性情報に関する設定。
iocnf.txt	薬剤、輸液、輸血、出血量などに関する設定。
remcnf.txt	記号(麻酔開始、挿管、硬麻穿刺など)の設定。
prdcnf.txt	薬剤濃度予測に関する設定。
calcnf.txt	各種計算式の定義。
txtcnf.txt	患者属性や計算結果の表示位置、フォントなどの設定。
wavcnf.txt	自動収集される各種波形データの表示方法に関する設定。
sa2cnf.txt	他のデータベースソフト等で作られた麻酔予定表を取り込む際の設定。

上記の順番で説明していきます。

なお、CONF¥monitors 内の aspect bp608 fabius infinity intellivue lifescope s5 solar viridia は各ハートモニタとの通信の設定ファイルです。「接続方法.pdf」をお読みください。CONF¥pics フォルダ内はチャート印刷の際の背景ビットマップファイルです。

● dircnf.txt

code_word

フリーソフトの配布制限用ですが、現在は配布制限は行っておりませんので、使用していません。

window_title

NV.exe のウィンドウ枠に表示される単なるタイトルです。病院名などに変えてください。

data_directory

症例データ(ハートモニタからのデータおよび記号データ、薬剤データ、患者属性データなど)を保存するフォルダへのパスを指定してください。これが設定されていないばあい、インストールフォルダの中の DATA フォルダに保存します。ネットワーク環境で使用される場合はサーバー内のフォルダを指定してください。その後ろに FM.exe の「フォルダ変更」ボタンを押したときにメニューに表示される名前を指定してください。

save_directory

データ整理用のフォルダです。麻酔が進行中(モニタ中)のデータは data_directory に置かれますが、FM.exe(ファイルマネージャ)で症例データを整理移動するときにお使いください。save_directory 内には日付ごとや科ごとなどの子フォルダを作ることができます。その後ろに FM.exe の「フォルダ変更」ボタンを押したときにメニューに表示される名前を指定してください。save_directory は複数個指定することができますし、それぞれの save_directory 内に作られた子フォルダは自動的に認識され、子メニューとして展開されます。孫・曾孫フォルダ等、どんどん入れ子にできます。

(data_directory は1個しか指定できませんし、その中に子フォルダは作れません。作っても[metaChart]は認識しません。)

other_directory_mnemonic

上記以外のフォルダを選択するためのメニュー項目の名前を指定します。このメニューを選ぶと通常のフォルダ選択ダイアログが表示されますので、ここにフォルダパスを指定することはできません。ここは名前だけです。

file_suffix

データファイルの名前は、1AH00.wna のようになっています。最初の3文字は年月日をそれぞれ1桁で表します。

0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, A, B, C, D, E, F, G, H, I...と Z まで行きます。これで 0 から 35 まで表します。

その次の一桁は、その日その部屋で行われた症例の番号です。0 から始まり、Z までです。次が上記の file_suffix, そのあとの “.wna” はバイタルサインのデータファイル, “.txt”は患者属性ファイルです。年を表す最初の一桁は 2035 年には Z になり、2036 年には 0 に戻ります。日に1部屋でやる症例数も 36 例までです。複数のモニタがネットワーク経由で同じフォルダにデータを書き込む場合、モニタ機番や部屋番号等を file_suffix としてファイル名につけて区別します。

すべての部屋の file_suffix を異なる番号または文字にしてください。ただし文字数は同じにしてください(かつ、8文字以内)。たとえば、01, 02, 03, ...10, 11...のようにしてください、けっして 1, 2, 3, ...8, 9, 10, 11...のように1文字と2文字を混在させ

ないでください。

複数の部屋に同じ file_suffix を使用しないでください。異なる症例に同じファイル名が割り当てられてしまいます。

local_retention_days

ネットワーク環境、つまり data_directory として他のコンピュータを指定したばあいに、自身の DATA フォルダにデータを保存しておく日数を指定します。0日を指定すると、翌日廃棄になります。指定しないと、無期限に保存します。サーバーの故障などに備えて必ず数日間は保存するようにしてください。ネットワーク環境でないばあいは、この設定は無視され、データは廃棄されません。もしネットワーク環境設定になっているにもかかわらずサーバーと通信できず、この日数が経過してもデータをサーバーへ転送できなかったばあいは、サーバーへ転送できるまで廃棄しません。

demograph_menu_directory

NV.exe 画面の「一般情報」/「インシデント」ボタンで表示されるダイアログで用いるメニュー項目のファイルを格納するフォルダを指定します。これを指定しなければ、インストールフォルダの ADM とみなされます。ネットワーク環境でこのフォルダを共有したばあい、ある部屋でメニュー項目を編集すると、他の全ての部屋にもその結果が反映されます。「メニューファイルの書き方.pdf」参照。

wave_viewer

module

バイタルサイン欄をダブルクリックしたときに起動される波形表示ウィンドウのモジュール名を書きます。/std_arg/は必ず書き添えてください。geom= に続けて、起動時のウィンドウのサイズと、それをパソコンディスプレイ上のどの位置に表示させるかを指定してください。“300x400”は横 300 ドットx縦 400 ドットのサイズ。次の“+数”はディスプレイ左縁からのマージンドット数、これを“-数”と書くとディスプレイ右縁からのドット数になります。2番目の“+数”はディスプレイ上縁、“-数”と書くとディスプレイ下縁からになります。

print_id_string

print_id_length

bitmap_id_string

bitmap_id_length

波形表示画面(WV.exe)の印刷とビットマップ画像ファイル出力機能で用います。電子カルテなどで使われるドキュメントサーバーへ出力する際のファイル名生成用です。紙に印刷するときは単に印刷ドキュメント名としてプリントスプーラーに表示されるだけで、ほとんど意味がありません。出力先プリンタを Adobe Acrobat Distiller にする(つまりPDFファイルとして出力する)ときにも役に立ちます。使い方は後述の print コマンド、bitmap コマンドを参照。また電子カルテシステムへの転送は電子カルテ.pdf を参照

human_interface_device

患者 ID(磁気)カードリーダーやバーコードリーダーはアプリケーションソフト側からはキーボードと同じように扱われます。[metaChart]では、入力された内容によって外部ソフトウェアモジュールを選択し起動することで種々のデータ入力に対応します。この human_interface_device 節はそれぞれの外部ソフトウェアモジュールごとに作られ、モジュール名と起動条件を定めます。

min_char_count

最小文字数を指定します。

max_char_count

最大文字数を指定します。

pattern

文字のパターンを指定します。半角クエスチョン“?”はどんな文字にも一致します。

例 1 : min_char_count = 69;
max_char_count = 69;
pattern = ???-???-;

これは当院の診察券です。69 バイト長で4文字目と8文字目に患者 ID 番号のハイフンがあります。

例 2 : min_char_count = 13;
max_char_count = 13;
pattern = a37;

これは日赤の血液製剤パックの番号です。当院は兵庫県にあるので番号は常に a37 で始まります。

module

外部モジュールを指定します。入力された文字が上記の条件すべてに合致したときに起動されます。入力された文字列を起動されたモジュールに渡す方法はインターフェース.pdf を参照してください。

inout

薬剤や In/Out に関する事柄のうち、メニューファイルの所在に関する事柄だけは、ここで指定します。メニューファイルが複数に分かれているばあいも、全てのファイルを1つのフォルダに入れてください。

master_directory

薬剤メニューファイルを格納するフォルダを指定します。これを指定しないとインストールフォルダの ADM とみなします。ネットワーク環境でフォルダを共有した場合には、ある部屋から施された変更が 1~2 分で他室に伝播します。

root_file

メニューを構成する起点になるファイルを指定します。このファイルは「薬剤メニューの起点変更」とは無関係に本当の起点になるファイルを指定してください。

root_point

「薬剤メニューの起点変更」で変更される前の、起動時のデフォルトの起点を指定してください。

command

[metaChart]では各種コマンド(「モニタ開始」や「開く」など)に外部プログラムモジュール実行機能をつけています。この節では各コマンドごとに、メニューに載せる見出し名、画面上のボタンの位置やデザイン、外部プログラムモジュール名を指定します。

module

コマンド名(実行モジュールファイル名)と引数を指定してください。[metaChart]純正コマンドには/std_arg/という引数をつけてください。module 句は複数個指定することができますし、個数に制限はありませんが、実行順序は不定です。一応記載された順序に ShellExecuteEx 関数で起動しますが、一つずつの実行開始を確認せずに次々に ShellExecuteEx をかけますので、実行順序はプロセススライスの割り当て次第ということになります。

/std_arg/

起動引数として、起動元(NV.exe)のウィンドウハンドル、記録開始時刻先頭からのオフセット秒数、データ変更許可の有無、暗号化されたユーザー名(個人認証機能付加の場合のみ)を送ります。

/wna_file/

起動引数として、波形/数値データファイルのパス名を送ります。

/text_file/

起動引数として、文字データファイルのパス名を送ります。

この他に各モジュール固有の引数は“名前=値”のペアで表してください。ただし“=”の前後に空白文字を挿入しないでください。

menu

ここで指定した名前メニュー項目が作られます。

button

ここに指定する条件で画面上にボタンが作られます。

sheet

どのシート上に作るかを指定します。複数のシートを指定できます。シートについては dspcnf.txt 参照。

left

ボタン左側の X 座標(標準座標)

right

ボタン右側の X 座標(標準座標)

top

ボタン上側の X 座標(標準座標)

bottom

ボタン下側の X 座標(標準座標)

background_color

ボタンの背景色

symbol

ボタン表面に描くシンボル

new

「モニタ開始(新規)」です。メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。

ボタンは指定しないと作られません。

append

「モニタ再開(追記)」です。原則として module は new と同じものを書いてください。メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

stop

「モニタ停止」です。module は(終了処理など)必要があれば書いてください。local machine へのデータ保存⇒module の実行⇒local machine からサーバーへのデータ複写 の順で行います。

メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

open

「開く」です。module は「開く」ダイアログを表示するプログラムそのものです。

この module から開く path 名を NV へ渡す方法は**インターフェース.pdf** を読んでください。

メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

save

「上書き保存」です。メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。

ボタンは指定しないと作られません。

上書き保存した後、もし module が指定されていれば、それらを実行します。

print

ボタンを表示するシートとは別に、どのシート(sheet)をどの横軸縮尺(abscissa)で印刷するかを指定してください。

指定しないと現在の画面シートを現在の横軸縮尺で印刷します(要するにスクリーンイメージ印刷です)。

sheet と abscissa については dspcnf.txt をお読みください。module は指定しても無視します。

print は4つまで作れます。メニューは「ファイル」メニューの中に作られますが、指定しないと作られません。

ボタンも指定しないと作られません。

sheet にはトレンドシートとサマリーシートがあります。トレンドシートは経時的にバイタルサインのプロットや薬剤の記録を書く、いわゆるチャートのオモテ面です。麻酔時間が長くなるとページ数が増えます。サマリーシートは麻酔チャートのウラ面に相当するもので、麻酔時間が長くなっても常に一定のページ数です。サマリーシートに対応づけられる screen には trend, alarm, remark, inout の定義はありません。screen 定義の詳細は後述。

trend_sheet = sheet 名 abscissa 番号 ;

summary_sheet = sheet 名 ;

サマリーシートには時間軸がありませんので、abscissa 番号も不要です。サマリーはトレンドのページを印刷した後に付け加えられます。summary_sheet を指定しなかった場合、サマリーのページは印刷されません。trend_sheet を指定せず、summary_sheet のみのばあい、サマリーのみが印刷されます。サマリーを複数ページ持つ場合は、

summary_sheet = 麻酔サマリー用 ;

summary_sheet = 他科サマリー用 ;

などのように複数行続けて記載してください。1つの print コマンドに、サマリーは4つまで指定できます。

id_string = 計算式名 ;

id_length = 数 ;

id_string には電子カルテのドキュメントサーバーへ送るためのファイル名を生成する式の名前を書いてください。計算式を直接書かないでください。ほとんどのばあいファイル名は患者 ID であつたり手術台帳番号であつたりすると思います。id_length には生成されるファイル名の最小の文字数(バイト数)を数値(式ではなく)を書いてください。生成されたファイル名の文字数がこの数未満だと PDF 出力やビットマップ出力は行われません。患者 ID が入力されていない時など、不正なファイル名で出力されることを防ぐための機能です。id_length = 0 ; にすると、この機能は働きません。

この場合の文字数とは、あくまで base name のことです。フォルダ名の部分や拡張子はふくみません。

print_preview

上記 print と同じ条件で、印刷プレビューします。

bitmap

print コマンドと同じ動作をしますが、256色 BMP 形式の1ページ/1ファイルの出力です。ファイル名の生成方法、trend_sheet, summary_sheet などは print コマンドと同じですが、ファイル名の末尾にページ数が付き、拡張子は bmp になります。

execute

指定した module を実行します。画面に何も表示されていないとき(ファイルも開かれていなくて、モニタ開始もされていないとき)、あるいは他室で麻酔中(データ収集が現在進行中)の症例を開いているときにはメニューは灰色表示され、ボタンは平面表示され、押しても無反応で module は実行されません。メニューは「ファイル」メニューの中に作られますが、指定しないと作られません。ボタンも指定しないと作られません。

execute_monitoring

上記 execute と同じですが、モニタ開始されているとき(データ収集中)しか実行できません。

execute_viewing

上記 execute と同じですが、既にモニタ終了したファイルを開いているときしか実行できません。

quit

NV を終了します。「モニタ開始」したままで「モニタ終了」せずに NV を終了しても正常に終了処理は行われます。

メニューは「ファイル」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

undo_remark

「記号を元へ戻す」機能です。

メニューは「編集」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

undo_inout

「薬剤を元へ戻す」機能です。

メニューは「編集」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

change_inout_root

「薬剤メニュー起点変更」ダイアログを表示します。

メニューは「編集」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

edit_inout_menu

「薬剤メニュー編集」機能です。ここに module として薬剤メニュー編集ソフトを指定してください。

メニューは「編集」メニューの中に(指定しなくても)作られます。ボタンは指定しないと作られません。

● dspcnf.txt

画面の構成要素は、大きく2つに分けられます。

1. バイタルサイン欄、警報欄、記号欄、薬剤欄と、それら4つに共通の時刻数字欄です。これらは同じ横幅と時刻範囲を持ち、左右(時刻)スクロールに対して常に連動します。

2. 押しボタン、コメント表示欄、各種計算値表示などの左右スクロールしない部分。これらは基本的に時刻とは無関係です。

そこで[metaCHart]では画面のレイアウトを決めるのに screen と sheet という2つの概念を用います。

screen は1に挙げたもので、共通の左端座標と右端座標を持ちます。上端座標と下端座標は個々に定義されます。警報欄と記号欄は上下端座標を持ちます。薬剤欄は上下端の間を別途(iocnf.txt で)定義する本数に分割され、横罫線が引かれます。バイタルサイン欄は上下端の間を“trend_divide”個に等分し(上下縁を含め“trend_divide + 1”本の横罫線が引かれ)ます。それぞれの横罫線は強調(太く)するか(あるいは普通の太さのままにしておくか)どうかを“trend_thick_line”で指定することができます。これらの横罫線に各種の縦軸を割り当てます。ある縦軸はバイタルサインをプロットする際の位置計算だけに用いられ、ある縦軸は左右に縦軸目盛り数字を書くためだけに用いられます。もちろん両方の機能を兼ね備えることもできます。

前記の標準座標(標準横幅 std_width と標準縦幅 std_height)は、この screen ごとに定義されます。標準座標はウィンドウ左上隅が原点(x=0, y=0)、右下隅は(x=std_width, y=std_height)、つまりX座標は右向きに、Y座標は下向きに増加します。一方、バイタルサイン欄内部の縦軸を決めるための trend_divide は下端が0番目、上端が trend_divide 番目で、上へ行くほど値が大きくなります。つまり標準座標のY座標とは逆方向に刻んでいます。

screen は最大16面まで、sheet は24面まで作ることができます。

ちなみに横方向の刻み方(縦罫線)は parcnf.txt の abscissa で、バイタルサインパラメータごとに指定します。

印刷時には std_width > std_height なら用紙は横長、std_width < std_height なら縦長に、プリンタを自動的に設定します。プリンタのプロパティでの設定は無視されます。

sheet は個別の画面を意味します。上記の screen(複数枚)の、どれか1つを含み、かつ上記2のパーツ多数個を含みます。screen を1つも含まない sheet を作ることはできません。ただし各欄にありえない座標値(-9999 など)を指定して描画範囲外へ追い出したダミーの screen を作っておいて、それを sheet 内で指定することはできます。そのばあいでも std_width と std_height は意味を持ちます。

個々の sheet がウィンドウメニューの「表示」メニューの中にそれぞれ名前をつけて表示されます。あるいは画面右のタブで選択できます。ユーザーがメニューやタブで選択できるのは screen ではなく sheet です。各ボタンや文字表示が、どのシートに表示されるのかは sheet 節ではなく、各パーツ(ボタンや文字表示)の個々の定義文に書かれています。sheet は最大12面まで作れます。

screen

number

この screen が何番目であるかの番号を指定します。この番号を使って後述の sheet 節の中で screen を指定します。

std_width

標準座標で記したウィンドウ横幅です。

std_height

標準座標で記したウィンドウ縦幅です。

background_bitmap

背景の画像(麻酔チャートの罫線など)を bmp ファイルで指定します。bmp ファイルは CONF フォルダ以下に置いてください。背景画が指定されたときはバイタルサイン欄, 警報欄, 記号欄, 薬剤欄の罫線は描かれません。

trend_graph

yes か no で指定します。no としたばあいは, バイタルサイン, 記号, アラーム, 薬剤の欄(つまり全ての時間軸記録)は描画されません。したがって, 以下の left から inout_bottom までは無視されます。no と指定されたスクリーン, つまり縦横のサイズとバックグラウンドピットマップ, パーティション(区切り線)だけを持ったスクリーンはサマリーページの印刷用に使用されます。(前述の dircnf.txt の print コマンド参照)

left

標準座標で記したバイタルサイン欄, 警報欄, 記号欄, 薬剤欄の左端位置です。

right

標準座標で記したバイタルサイン欄, 警報欄, 記号欄, 薬剤欄の右端位置です。

time_top

標準座標で記した時刻数値のフォント上縁位置の Y 座標です。

time_base

標準座標で記した時刻数値のフォント下縁位置の Y 座標です。

Y 座標は原則としてフォントの上縁の位置であらわすことにしましたので, 今後は time_base ではなく time_top を使ってください。

trend_top

標準座標で記したバイタルサイン欄上縁の Y 座標です。

trend_bottom

標準座標で記したバイタルサイン欄下縁の Y 座標です。

trend_divide

バイタルサイン欄の縦方向分割数です。

trend_pane

バイタルサイン欄の窓の区切りを trend_divide 単位で記します。たとえば, trend_divide を 37 にして, trend_pane = 0 37; とするとバイタルサイン欄全体が一つの窓になりますが, trend_pane = 0 10; trend_pane = 11 37; とすると画面下側の高さ 10 trend_divide の窓と上側の高さ 26 trend_divide の窓の, 2つに分けられます。上下の窓の間隙には縦罫線は引かれませんが, trend_pane は最大4つまで作れます。

trend_thick_lines

バイタルサイン欄の横罫線のうち太く表示する線を, バイタルサイン欄下縁からの trend_divide 単位で1本づつ指定します。最大 16 本まで指定できます。実際には画面上での太さを変えるのではなく, 画面上では濃い色と薄い色で太線と細線を書き分けています。印刷するときには実際に太さを変えています。画面上での色の指定と紙面での線の太さの指定は後述。

トレンドグラフ縦軸

バイタルサイン欄の縦軸を指定します。ここに書かれた縦軸は parcnf.txt 内の各パラメータの記述から参照されます。

縦軸名 = 軸下端 trend_divide 位置 軸上端 trend_divide 位置 軸下端の値 軸上端の値

目盛数値表示位置 刻み値 ;

軸下端の値と軸上端の値の後ろにアスタリスク "*" をつけると, その数値を超えた値がきたときにもシンボルを表示します。たとえば, hipress = 0 26 -20* 240* left 2; は第0 trend_divide を(血圧値)-20mmHg に割り当て, 第26 trend_divide を 240mmHg に割り当て, -20 より低い値や 240 より高い値が来たときには-20 や 240 のところに血圧のシンボルを表示します。"*"を書かないと範囲外の値はプロットされませんが, hipress という名前の縦軸は NBP や ABP の描画に使われます。

left はバイタルサイン欄左側に目盛数値を表示することを意味します。その次の"2"は 2 trend_divide ごとに目盛数値を表示することを意味します。left の他に right, left2, right2 が使えます。left2 と right2 は left と right のさらに外側に目盛数値を描きます。left3 や right3 はありません。left, right, left2, right2 のいずれも書かなければ, 目盛数値は描かれませんが, 末尾の"2"を省略すると1とみなします。縦軸は最大24個まで作れます。

縦軸名 = 縦位置 ; と書くと数値(文字)表示の Y 座標を指定します。

alarm_top

警報欄上縁の標準 Y 座標です。

alarm_bottom

警報欄下縁の標準 Y 座標です。

predict_top

標準座標で記した薬剤濃度予測欄上縁の Y 座標です。

predict_bottom

標準座標で記した薬剤濃度予測欄下縁の Y 座標です。

predict_ordinate

薬剤濃度予測欄の縦軸上縁の表示値と縦軸下縁の表示値を書いて下さい。グラフ縦軸は対数目盛です。ゼロや負の値は書けません。predict_top, predict_bottom, predict_ordinate を書かないか top や bottom の値を負にすると薬剤濃度予測欄は作られません。予測モデルの記述は prdcnf.txt をご覧ください。

predict_decline_width

減衰曲線表示欄の横幅を標準座標で表します。これを書かないと減衰曲線は表示されません。減衰曲線とは持続投与を0にしたと仮定した各コンパートメント濃度予測グラフで、薬剤濃度予測欄の右隣に表示されます。この横幅が実際の時間の何分間ぶんを表示するかは prdcnf.txt 内で指定します。

remark_top

記号欄上縁の標準 Y 座標です。

remark_bottom

記号欄下縁の標準 Y 座標です。

inout_top

薬剤欄上縁の標準 Y 座標です。

inout_bottom

薬剤欄下縁の標準 Y 座標です。

partition

単なる画面の装飾用の枠を表示するためのものです。

line_color

縁の色です。

fill_color

枠の内部の塗りつぶし色です。

line

図形の描き方の line と同じです。line_color で折れ線を描きます。座標は図形の中心を原点とするのではなく、ウインドウ左上が原点です。

polygon

図形の描き方の polygon と同じです。line_color で折れ線を描き、内部を fill_color で塗りつぶします。

line_color, fill_color, line, polygon は何度でも繰り返し書けます。

sheet

name

各ボタンや文字表示から、この名前が参照されます。

screen_number

何番目の screen を使用するか、番号で指定します。番号は0番から始まります。

tab

yes か no を指定します。yes を指定すると画面の縁のタブに名前が載り、タブで選択できるようになります。

menu

yes か no を指定します。yes を指定するとウインドウメニューの「表示」メニューに名前が載り、メニューで選択できるようになります。tab も menu も no のばあい、ユーザーはそのシートを選択して画面上に表示できなくなります。印刷用シートなどユーザー画面から隠したいときは、そうしてください。

comment_column

手書きの麻酔チャートのバイタルサイン欄の右側や下側に作られている文字記載欄と同じようなものです。paperChart ではここに、記号に付けられたコメント(硬麻穿刺時の針の深さや挿管のチューブサイズなど)が記載されます。さらに薬剤欄右端に書ききれなかった薬剤の合計もここに記載されます。左上から横書きで書き始めます。枠の下まで書いたら右側に次の段を書きます。つまり横長の枠が指定されたら、いわゆる段組になります。

sheet

シート名を指定してください。

left

right

top

bottom

標準座標で枠の左右上下を指定してください。

divide

横幅(left から right まで)を何分割するか指定します。横長の欄を指定したときの段組にお使いください。指定しないと divide=1; とみなされ段組は行われません。

font

フォントのサイズ(標準座標での高さ)です。常に不等幅フォントが使用されます。

color

文字の色です。

drug_title

薬剤合計量を書くときのタイトルです。

drug_qty

薬剤合計を各ページに記載する(every_spread)か、最後のページだけに記載する(latest_spread)かを指定します。

以下、display_XX は画面表示の、print_XX は印刷用を表します。

display_thin_ruler_color

バイタルサイン、記号、薬剤欄の細い(薄い)罫線の色

display_thick_ruler_color

バイタルサイン、記号、薬剤欄の太い(濃い)罫線の色

display_ruler_font_height

目盛、時刻、バイタルサイン、記号、薬剤欄のフォントの高さ(標準座標)

display_ruler_font_color

目盛、時刻、バイタルサイン、記号、薬剤欄のフォントの色

display_background_color

画面背景の色

display_trend_pane_color

バイタルサイン欄内側の背景の色

display_remark_pane_color

記号欄内側の背景の色

display_inout_pane_color

薬剤欄内側の背景の色

wave_mark_color

波形ウィンドウの表示時刻を示すカーソルの色

scrollbar_color

ウィンドウ下縁のスクロールバーの色

sheettab_background_color

シートの切り替え用のタブの背景色

sheettab_placement

シートの切り替え用のタブの表示位置(right, left, top, bottom)。

print_thin_ruler_width

バイタルサイン、記号、薬剤欄の細い罫線の太さ

print_thick_ruler_width

バイタルサイン、記号、薬剤欄の太い罫線の太さ

print_ruler_color

バイタルサイン、記号、薬剤欄の罫線の色

print_ruler_font_height

目盛、時刻、バイタルサイン、記号、薬剤欄のフォントの高さ(標準座標)

print_ruler_font_color

目盛、時刻、バイタルサイン、記号、薬剤欄のフォントの色

print_background_color

画面背景の色

chart_span_seconds

麻酔チャート紙面1ページ分の時間幅を秒数で。

chart_step_seconds

麻酔チャート紙面の時刻の左端を何分刻みで整定するかを秒数で。

chart_span_seconds と chart_step_seconds は画面上に麻酔チャートのページの切れ目を表示するためだけに使います。

何か別の切れ目を表示する目的に使っても構いません。

scroll_freeze_seconds

モニターデータ収集中に画面を左右スクロールした後、何秒後に現在時刻(右端)表示に戻るか。

tip_dialog

バイタルサイン欄にマウスポインターを放置すると、その時刻のバイタルサインを数値表示する小ウィンドウが出ます。それをチ

ップ表示(チップダイアログ)と呼んでいます。

font_height

フォントの高さを標準座標ではなく実ドット数で指定します。チップ表示はメインのウィンドウと違って、伸縮しません。

duration

何秒間表示し続けるか指定します。

switch

none を指定するとチップ表示を行いません。known を指定すると、parcnf.txt に記載されているパラメータだけを表示します。all を指定すると、全てのパラメータを表示します。all はハートモニタに新しいモジュールが追加されたときなどのデバッグ用です。

text_color

文字の色です。

background_color

背景の色です。

version_splash

NV.exe の「ご案内とヘルプ」メニューの「バージョン情報」で表示されるウィンドウです。任意の大きさの BMP 画像ファイルが使えます。貴院のロゴ画像などをご使用ください。サンプルファイルについている CLOSE ボタンは見せかけだけです。ウィンドウは画像のどの部分をクリックしても閉じます。

loading_splash

データファイル読み込んでいる間、表示し続ける画像ファイルです。

blank_splash

NV.exe の起動時に表示されるウィンドウです。任意の大きさの BMP 画像ファイルが使えます。貴院のロゴ画像などをご使用ください。サンプルファイルについている CLOSE ボタンは見せかけだけです。ウィンドウは画像のどの部分をクリックしても閉じます。クリックしなくても約5秒で閉じます。

parcnf.txt

parameters

ハートモニタやその他の測定器から送られてくる数値データの表示方法を指定します。表示方法には2種類あります。ひとつはバイタルサイン欄に値を点でグラフ表示することで、もうひとつはバイタルサイン欄の特定の高さの場所に数値(文字)表示することです。点グラフ表示のばあいにはシンボルの色や形を、数値表示の場合は書式を、各パラメータごとに指定します。

パラメータ名

[metaChart]ではすべての名前に上付文字と下付文字の使用を許します。たとえば SpO_2 は画面上では SpO_2 と表示されます。あるいは Ca^{2+} は Ca^{2+} です。しかし、ハートモニタから送られてくるパラメータ名は上付文字と下付文字を区別する記号はありません。ここに記載するパラメータ名とハートモニタから送られてくるパラメータ名を比較するときは上付き下付きの指示句と大文字小文字の区別を無視します。たとえば SpO_2 と SpO_2 は同じものとみなします。いっぽう、ここに書くパラメータ名と後述の abscissa 節の period_duration 節に書くパラメータ名は正確に一致している必要があります。大文字小文字も上付き下付きも一致している必要があります。ご注意ください。

symbol

シンボルの書き方は先に述べたとおりです。プロットする図形を指定してください。収縮期、拡張期、平均値の、いわゆる triple values のばあいは後述の systolic, diastolic, mean, alternative_mean の中に symbol を書いてください。

literal

数値(文字)表示のばあいの書式を指定してください。書式の書き方も先に述べたとおりです。symbol と literal を同時に指定することはできません。また、literal では収縮期と拡張期の値を表示することはできません。

systolic

収縮期の値のシンボルを書いてください。

diastolic

拡張期の値のシンボルを書いてください。

mean

平均の値のシンボルを書いてください。

alternative_mean

平均の値のシンボルを書いてください。

シンボルを mean で指定すると収縮期や拡張期の値が有っても無くともプロットされますが、alternative_mean で指定すると収縮期値拡張期値が来なかったとき(圧波形がなまっているとき等)にしかプロットされません。

ordinate

dircnf.txtの screen 節で指定したトレンドグラフ縦軸のどれかの名前を書いてください。数値(文字)表示のばあいは表示位置の縦座標だけを指定した軸を用いてください(例として istat 軸を参照)。

option

プロットは後述の abscissa で“何秒間隔でプロットするか”を指定しますが、その際の代表値の計算方法を4種類用意しています。

median : 中央値を用います。ハートレートのように電気メスのノイズによる値の動揺が激しいものは、この方法を指定してください。平均値よりきれいな表示ができます。

minimum : SpO2 のように、その区間の最低値が問題となるようなパラメータにお使いください。

maximum : PCO2 のように、その区間の最高値をとりたい場合にお使いください。

ちなみに mean も有りますが、あまり有用性はありません。

abscissa

マウスホイールやバイタルサイン欄右クリックメニューで画面の時間縮尺を変えるときには、この abscissa 節の切り替え表示で対処しています。abscissa 節は最大7つまで指定できます。マウスホイールを手前へ回すと先に指定した abscissa 節に切り替わります。マウスホイールを向こうへ回すと後に指定した abscissa 節に切り替わります。[metaChart]は実際に縮尺の大小を見ているわけではありません。

span

画面の左端から右端までで、何秒間のデータを表示するか、指定してください。

step

何秒間ぶんづつスクロールするか指定してください。その時刻ごとに太い縦線が入ります。

tick

何秒間ごとに細い罫線をいれるか、指定してください。

tip

チップ表示の数値を、何秒間のデータを基に計算するかを指定してください。ここに指定された時間でそれぞれのパラメータオプションで示された方法で値を計算します。チップ表示に用いる時間幅は下の period_duretion の指定ではなく、どのパラメータも同じ時間幅を使います。

period_duration

ハートモニタには、連続して収集されるパラメータ(ABP, SpO2 など)と、間歇的(不定期)に収集されるパラメータ(NIBP, 血液検査データなど)があります。[metaChart]において連続して収集されるパラメータはほとんどのハートモニタで5秒間隔で収集しています。しかし、それらを常に5秒間隔で表示したのでは、長時間縮尺の画面が見つらなくなるので、縮尺ごとに、それぞれのパラメータごとに適当な時間間隔を指定して、parameters 節に指定された計算方法で求めた、代表値を画面上にプロットしています。

パラメータ名

各パラメータごとに、何秒間隔(period)で、何秒間の値(duration)を元に代表値を計算するか、を指定してプロットします。連続して収集されるパラメータでは必ず $duration \leq period$ にしてください。間歇的(不定期)に収集されるパラメータでは必ず $duration = period$ にしてください。そうしないと1回しか来ないデータはタイミングによっては表示しないことがあります。

default

列挙されなかったパラメータ名には、この default の設定が適用されます。

calc

バイタルサイン関係の計算式を書きます。実際のところ他の計算式も書けます。calc 節は parcnf.txt, dmgnf.txt, remcnf.txt, iocnf.txt に書くことができます。

alarms

ハートモニタその他の測定器からの警報データの色分け表示です。この警報色表示に上にマウスポインタを置くと、警報内容の文をチップ表示します。

colors

high

高レベル警報の色です。何が高レベルかは各ハートモニタメーカーによって異なります。

med

中レベル警報の色です。

low

低レベル警報の色です。

min

最低レベル警報の色です。一応、コメント程度の意味で作っておきます。

remarks

警報が出たときに自動的に記号欄にも転記します。

criteria

どの警報を記号欄に転記するかを指定します。highは高レベル警報のみ、medは高レベルと中レベルのみ、noneは何も転記しません。選択肢としてのlow(3レベルともに)は、ありません。

reload_time

警報が出続けた際の不感時間(秒)です。

name_and_label

警報が出たときにメッセージを転記する先方の記号名と選択肢項目名です。

● dmgnf.txt

dialog **— この機能を実装する MA.exe は廃止(obsolete)されました。代わりに MA2.exe を使用してください。 —**
MA2.exe と、それに関連する degraphs 節/incidents 節については「メニューファイルの書き方.pdf」を参照。

この節は NV.exe が読むものではなく、「記載…」ボタンで起動される MA.exe が読みます。MA.exe の画面のレイアウトに関するものです。ここに書かれるものは、あくまで「記載…」で閲覧、書き込みできる項目であって、[metaChart]は項目名と値のペアなら何でも、いかなる宣言もなしに使用できます。

edit (ascii_edit , kana_edit)

文字入力欄を作ります。項目名 = ascii_edit ; あるいは 項目名 = ascii_edit 使用可能文字リスト ; というかたちで使用します。たとえば使用可能文字リストとして “0123456789” とすると、入力欄は数字だけを受け付けます。あるいはリストとして “ABO” とすると、AとBとOの組み合わせしか受け付けません。もしリストに無い文字を入力すると警告音を鳴らし、入力は無視されます。edit2 とすると入力欄は2行ぶん作られます。demograph(項目名)という計算で、ここで入力された文字列が返されます。ascii_edit はクリックしたときに入力を強制的に半角英数モードに設定します。kana_edit はクリックしたときに自動的に仮名漢字変換モードに設定します。

radio

ラジオボタン(多肢一択)を作ります。項目名 = 選択肢1 選択肢2 選択肢3 … ;

たとえば選択肢1を選ぶと 項目名=選択肢1 という結びつきが[metaChart]内部に作られ、demograph(項目名)という計算は“選択肢1”という値を返します。Windows 本来の radio button は一度どれかのボタンを選択すると何も選択しない状態には戻れませんが、この radio button は既に選択されているボタンをもう一度クリックすると、何も選択しない状態に戻せます。

menu (tree_menu , candidate_menu)

文字入力欄を作りますが、欄の右端にメニュー表示ボタンが添えられます。項目名 = tree_menu メニューファイル名 ; と書いてください。メニューファイルは dircnf.txt の demograph_menu_directory に入れてください。使用可能文字リストは指定できません。menu2 は edit2 と同じく入力欄が2行になります。tree_menu は人名選択などにお使いください。“▽”を押すとメニューが表示されます。candidate_menu は病名や術名など選択肢が多い場合にお使いください。入力欄にキーワードを入れて“▼”を押すと、そのキーワードを含む選択肢をメニュー表示します。

separator

単なる区切りのための横線を表示します。html の<hr>のようなものです。“” = separator ; と書いてください。=の左辺に項目名を書いても無意味です(無視します)。

next_column

段換えをして、右側の段の上縁から、新たに書き始めます。“” = next_column ; と書いてください。=の左辺に項目名を書いても無意味です(無視します)。

— ここまで obsolete —

open_dialog

NV.exe の画面の「開く」ボタンで表示する症例ファイル一覧に関する項目を指定します。

start_date, start_time, file_suffix は予約語です。患者属性データの項目名とは無関係に、start_date はモニタ開始日付、start_time はモニタ開始時刻、file_suffix はモニタ機番を表します。

display

画面に表示する患者属性データの項目名を列挙します。display 句の中ではデータ項目名を縦棒“|”でつなぐことができます。たとえば“漢字姓名 | かな姓名”と書くと漢字姓名が入力されていれば漢字姓名を、漢字姓名が空欄なら、かな姓名を表示するという意味になります。

sort

症例を並べる順序を決めるための患者属性データの項目名を列挙します。語頭の+と-は昇順か降順かを表します。たとえば、sort = -start_date +file_suffix +start_time ; は、まず開始日付の降順(最近の症例を先)に、同じ日付のものはfile_suffix(モニタ機番あるいは手術室番号?)の昇順(番号の小さいものから先)に、同じ手術室の症例は昇順(早い時刻のものから先)に並べて表示します。+も-も付けないと昇順とみなします。

search

「開く」ダイアログの「検索条件」ボタンを押したときの検索条件として用いる項目名を書きます。検索条件として start_date, start_time, file_suffix を指定することはできませんが、検索条件として日付の範囲指定欄は常に表示されます。

calc

demograph に関する計算式を書いてください。書きかたは前述のとおり。後に述べる calcnf.txt と同じものです。設定ファイルを書くときの便宜のために、ここにも書けるようにしました。

inout_body_weight

薬剤のシリンジポンプ持続投与の際に設定された体重を患者属性データに反映させるかどうかの設定です。

name

患者属性における患者体重項目の名前を示してください。(といっても、“患者体重”か単に“体重”かどちらかでしよう)

write_back

薬剤のシリンジポンプ持続投与の際に設定された体重が患者属性の体重データと異なったとき、患者属性の体重データを書き改めるかどうかを yes, no で指定してください。

crypt

暗号化して保存する患者属性データを項目名 (dialog 節の中の“=”の左辺) で指定してください。といっても恐らく患者 ID, 姓名, 生年月日くらいでしょうが、データ大量盗難(あるいは流出)に際して、「院長ととも記者会見で頭を下げる」のをいくらでも軽減するための措置です。この暗号はあまり頑丈なものではありませんが、少なくとも医療関係者や報道関係者には破れない程度のもので、暗号化する部分は必要最小限にしてください。

「より大量の暗号文は、より破られやすい…」というのが鉄則です。

● iocnf.txt

menu_label

ウインドウ上縁のメニューに表示する文字を指定します。とりあえず“薬剤”としていますが、輸液や尿量も含まますので “In/Out” など適当に変えてください。

left_button_menu

ここを verbose にすると、薬剤欄左クリックしたときに、まず、その欄で使用されている薬剤のメニューが表示され、その下に「薬剤メニューの起点」で指定された薬剤メニューが表示されます。

ここを terse にすると、左クリックで薬剤メニュー全体は表示されなくなり、その欄で使用している薬剤の入力画面が直接表示されるか、その欄で使用している薬剤が複数種類の場合はそれらの薬剤メニューだけが表示されます。

いずれの場合も右クリックで薬剤メニューを表示する動作は変わりません。

route_color

薬剤欄左端に投与経路(末梢, 中心静脈など)を表示するときの文字色です。

label_color

薬剤欄左端に薬剤名(フロホフォル, フェンタなど)を表示するときの文字色です。

volume_color

薬剤欄の用量の数字と持続投与, 点滴投与の横線の色です。

単位が L または ml (要するに体積)のときに、この色で表示します。

dosis_color

同じく単位が g あるいは mg, μ g (要するに溶質量)のときに、この色で表示します。

weight_color

同じく単位が患者体重あたりの溶質量(mg/kg や μ g/kg/min など)のときに、この色で表示します。

sum_color

薬剤欄右端の薬剤合計の数字の色です。

値が確定値(持続投与や点滴がきちんと終了されている)のときに、この色で表示します。

sum_color2

値が暫定値(持続投与や点滴が終了されていない)のときに、この色で表示します。

routes

ルート(投与経路)名と、そのルートを右クリックしたときに表示される薬剤メニューの起点を指定します。指定されたメニューが薬剤単品または組合せメニューであったら、直接その薬剤の入力画面になります。指定されたメニューがフォルダまたはファイル(一般的な使い方.pdf の「薬剤メニュー編集」参照)であったら、その点以下のメニューが表示されます。

bindings

各薬剤欄に起動時に設定されるルート名、または主に記載される薬剤名を記載します。

ここで指定された本数の薬剤欄が作られます。つまり、dspcnf.txt の screen の inout_top と inout_bottom の間を、ここで指

定された本数に内分します。

agent = 薬剤名 … ; O2, Sev, Fenta など, 好んで特定の欄に記入される薬剤(複数可)を指定してください。ただし, 薬剤メニューファイルで「薬剤欄内での縦位置」が指定されている場合は, そちらが優先されます。
route = 投与経路名 ; ガーゼ量, 尿量など特定の目的に使われる経路名(複数不可)を指定してください。

button

薬剤一発投与ボタンです。ボタンを押すと現在時刻に, その薬剤投与が記録されます。ボタンを薬剤欄の希望の時刻へドラッグすることもできます。

drug

単品薬剤を指定するとボタンを押したときに投与量入力ダイアログが表示されます。
組合せメニューを指定すると, ボタン一発即薬剤量確定入力です。

sheet

ボタンを表示するシート名(複数指定可)です。

left

right

top

bottom

標準座標で指定する, ボタンの左右上下の位置です。

background_color

ボタン表面の色です。

symbol

ボタンに描かれるシンボルです。

calc

In/Outに関する計算式を書いてください。書きかたは前述のとおり。後に述べる calcnf.txtと同じものです。設定ファイルを書くときの便宜のために, ここにも書けるようにしました。

remcnf.txt

menu_label

NV.exe ウィンドウ上縁の親メニューとして表示する文字を指定します。とりあえず“記号”としていますが, “シンボル”, “リマーク”など言い方はいろいろだと思います。

begin と end

開始と終了を持つ記号は, 以下に述べる内容をそれぞれ begin と end の中に書いてください。

label

記号メニュー内に表示される名前です。

symbol

記号欄に表示されるシンボル(麻酔開始なら×, 手術なら◎…など)です。

choice

この記号に付随するコメントの項目名とその選択肢を記載してください。ここで入力された内容は計算式で remarkBeginValue ('気管挿管', 'size', 1) で, 1回目の挿管のチューブサイズとして 7.5mm という文字列を返す, あるいは 7.5 という数を返す, という風に使えます。右辺に選択肢を書かずに1個の空文字列 "" を書くことにより, キーボードから文字入力できます。例として CONF¥remcnf.txt の気管挿管の節をご覧ください。

choice = の右辺にファイル名を書くこともできます。選択肢が1つしか書かれない場合は, それがファイル名であると解釈します。(CONF¥remcnf.txt の持続硬注の節を参照)

選択肢ファイルの書き方は「メニューファイルの書き方.pdf」をお読みください。ファイルは必ず ADM フォルダ内に置いてください。

button

ボタンを押すと現在時刻に, その記号が記録されます。ボタンを記号欄の希望の時刻へドラッグすることもできます。

sheet

ボタンを表示するシート名(複数指定可)です。

left

right

top

bottom

標準座標で指定する, ボタンの左右上下の位置です。

background_color

ボタン表面の色です.

symbol

ボタンに描かれるシンボルです.

ime

ascii または kana を指定してください. 文字入力を半角英数モードにするか日本語モードにするかを決めます. 指定しないと半角英数モードです. begin と end のある記号では, それぞれ begin と end 節の中に書いてください.

● prdcnf.txt

薬剤の血中濃度予測に関する設定です. 最大 20 モデルまで書くことができます. 画面や印刷面でのグラフ表示面の位置の指定方法は dspcnf.txt の screen 定義の中をご覧ください.

default_decline_minutes

薬剤の持続投与を停止したと仮定したばあいの一定時間分の濃度の減衰予測と現在の持続投与速度を同じ時間にわたって続けたと仮定したばあいの未来予測濃度を表示できます.

この機能を有効にするには dspcnf.txt の各 screen 節の中に predict_decline_width としてグラフ横幅の広さを指定してください. そうしないと未来予測グラフは表示されません.

ここでは predict_decline_width で指定した幅に何分ぶんのデータを表示するかを指定します. 4種類まで設定できます.

麻酔記録表示中に濃度予測設定画面上で, ここに指定した最大4種の時間のうち1つを選択できます.

あるいは未来予測表示面をマウス左クリックすることで順次切り替えることができます.

models

各ユーザーの責任において, この中に予測モデルを列挙してください. またダウンロード時に設定されているモデルの麻酔学/薬理学的妥当性についても, 越川は一切関知いたしません. (^o^;) / ワイワイ

article

モデルの元になる文献を書いて下さい. 表示/非表示や色の設定画面に表示します. それ以外の用途はありません.

drug

薬剤メニューに登録されている名前を列挙してください. プロポフォールとディプリバンやマスキュラックスとマスキュレートなど複数商品名が混在する場合を考えて, 4つまで書けるようにしています.

k10, k12, k13, k21, k31, ke0, v1

各パラメータです. “=”の右辺に計算式を書いて下さい. k の単位は 1/min., v1 の単位はリッターです. CL1~3や V2, V3 などの表記は受け付けませんので, たとえば k12 = の右辺には clearance2 を volume1 で割った物を書いて下さい. この prdcnf.txt の末尾の calc 節の中やその他の設定ファイル中の calc 節の中に書かれた式をここから参照することができますが, ここに書かれた式を他の場所から参照することはできません.

ke0=??; 句を省略すると, 効果器中濃度の計算は行いません.

k13=??; と k31=??; 句を省略すると, 2コンパートメントモデルとして計算します.

v1, k10, k12, k21 は必ず0より大きい正の式または値を書いて下さい. 1コンパートメントモデルはできません.

dependency

この中に書かれた式の右辺が成立しなかったとき, 左辺(式の名前)がエラーメッセージとして画面に表示されます.

例: 体重ブツブツ ~ = 0.5 <= 体重値 <= 200 ;

では, 体重が 0.5~200kg 以外だと「"モデル名"⇒体重ブツブツ」のエラーダイアログを表示します.

dependency 節に書ける式は8つまでです. 書いている制限範囲は誤入力防止のために適当に決めたもので, 論文に適用範囲として書かれているわけではありません.

“0.5 <= 体重値 <= 200” は “0.5 <= 体重値 & 体重値 <= 200” と同じ意味です.

dependency に記載したエラー条件の他にも, v1 や k10, k12, k21 がゼロか負の値になったときは「v1 ≤ 0」のようにエラーを表示します.

default_view

この右辺に, どのコンパートメントを表示するか書いて下さい. Ce C1 C2 C3 の任意の組み合わせを書くことができます. none と書くときどのコンパートメントも表示されません. この default 設定はソフトの起動時, ファイルを開いたとき, モニタ開始したときに適用されます. この設定は Nv.exe 画面の薬剤予測欄の左クリックまたは表示メニューの「薬剤予測設定」で表示される画面で随時変更できます. default_view 句そのものを書かないときは前回終了時の設定が使用されます.

default_color_Ce, default_color_C1, default_color_C2, default_color_C3

それぞれのコンパートメントの表示色 (RGB 値) です. ここに書いた色に関係無く Nv.exe の薬剤濃度予測設定画面で随時色の変更が行えますが, ソフトの起動時, ファイルを開いたとき, モニタ開始したときに, ここに書いた色の設定が適用されます. 色自体に特に意味はありません. 好みに合わせて書き替えてください. default_color_XX 句を書かないと前回終了時の設定をそのまま次回に使用します.

view_scale_factor

画面にプロットするときの単位と倍率です。単位部分は数値表示にも使われます。

view_scale_factor = 1 μ g/ml; と書くと濃度予測グラフの“1”の目盛の位置が 1 μ g/ml になります。

view_scale_factor = 10ng/ml; と書くと濃度予測グラフの“1”の目盛の位置が 10ng/ml になります。

使える倍率は m(ミリ), μ (マイクロ), n(ナノ), p(ピコ)。単位は何でもかまいません。分母の倍率は m(ミリ)です。

1 μ g/ml を 1mg/l と書いても同じです。gram 以外にも Eq, mol など使えます。

calc

この中に予測モデルに必要な計算式を書いて下さい。とりあえず、体表面積と除脂肪体重はここに書いています。

Minto_XX は Remifentanil の Minto によるモデルのためのものです。

● calcnf.txt

gengou と output 以外は計算式を列挙しているだけです。

gengou

患者属性情報の生年月日から年齢を計算するための元号⇒西暦換算表です。

数字は全て半角で。認識できる書式は次のとおりです。

20050507

2005 5 7

2005/05/07

2005/5/7

5/7/2005 ← 5月7日です。7月5日(ヨーロッパ風)はだめ。

2005 年 5 月 7 日

2005 年 05 月 07 日

あるいは元号記号(下記)に続けて、年数2桁以内で上記の書式。

H17/5/7 平成 170507 など…

元号記号なしの2桁年(2桁西暦)は認識しません。JAN,FEB,MAR 等も使えません。

年と月、月と日間の区切り記号は数字以外なら何でも可。"," ". " " (空白) "年" "ねん" "nen" など…

区切り記号なしの場合は必ず、年は2桁または4桁、月と日は2桁にしてください。

output

患者属性データの末尾につける各種の計算値です。左辺は項目名です。右辺の \$(…)\$ は、計算式の名前(計算式の左辺)を書いてください。バイトルサイン値を参照する計算を、あらかじめここに書いておいてください。そうすれば、あとで FM.exe の一覧表作成機能を実行するときに短時間で計算できます。

● txtcnf.txt

画面あるいは印刷紙面に出力する文字を設定します。

text

右辺で示される文字を画面あるいは紙面に出力します。右辺で \$(と) で囲まれた中には計算式の名前が入ります。それ以外の部分は、そのままの文字が出力されます。たとえば、

\$(麻酔開始時刻)-\$(麻酔終了時刻)[\$(麻酔時間)]; は、

13:32-17:44[4:12] というように計算式の部分だけが結果に置き換えられ、その他の文字はそのまま出力されます。

text = …; を繰り返し書くと、左揃えで改行して下へ書き続けます。フォントのサイズや色、シートと座標の指定は一度行くと、次に指定しなすすまで、その値が適用されます。ただしY座標だけは改行によって増加していきますが…

font

フォントの高さを標準座標で指定します。

fixed_color

計算した結果が確定値であった場合、この文字色を使います。

float_color

計算した結果が暫定地であった場合、この文字色を使います。

literal_color

定数文字列(計算式以外の部分には、この文字色を使います。

sheet

表示するシートの指定です。

x

標準座標で表した書き始め位置のX座標です。

y

標準座標で表した書き始め位置のY座標です。

w

1行の最大幅を（文字数ではなく）ドット数（標準座標）で表します。この値を指定すると、本来の改行位置（術名や病名、コメントなどの複数行入力のときにEnterやAlt+Enterが押された位置）は無視されて一つながりになります。この指定を解除するときは w=none; とするなど、右辺を数値でない文字列にしてください。

● wavcnf.txt

波形表示は Philips:IntelliVue, GE-Ohmeda:S/5 のみ対応します。

parameters

波形パラメータごとに描画線色と表示範囲(上下)を設定します。

upper

lower

波形表示ストリップの上下の値(?mv や?mmHg)など、単位は不要。もし、ハートモニタから上下限值が送られてきたばあいは、そちらが優先します。波形がここで指定した範囲を超えても自動的に波形の上下が切れないように調整します。

color

線の色を指定します。

show_unknown_wave

上記 parameters 節に書かれていないパラメータが送られてきた場合に、それを表示する場合は yes, 無視する場合は no.

display_thin_ruler_color

細い(薄い)罫線の色です。

display_thick_ruler_color

太い(濃い)罫線の色です。

display_frame_ruler_color

波形表示枠最外周の罫線の色です。

display_ruler_font_height

目盛用フォントの高さ(実ドット数)です。

display_ruler_font_color

目盛用フォントの色です。

display_foreground_color

その他の線の色です。

display_background_color

画面背景色です。

display_fixedval_color

philips:IntelliVue から送られてくるPVCや pacing beat を示す縦棒の色です。

display_range_color

philips:IntelliVue から送られてくる calibration range や physiological range の色です。

scrollbar_color

ウィンドウ右縁のスクロールバーの色です。

insert_rect_color

波形ストリップの表示順序を入れ替えるときの挿入位置表示カーソルの色です。

push_pinhead_color

表示範囲固定を意味する「押された画鋏」の色です。

pop_pinhead_color

表示範囲浮動を意味する「外れた画鋏」の色です。

open_button_color

波形ストリップ非表示の○印の色です。

close_button_color

波形ストリップ表示の×印の色です。

print_thin_ruler_color

細い(薄い)罫線の色です。

print_thick_ruler_color

太い(濃い)罫線の色です.

print_frame_ruler_color

波形表示枠最外周の罫線の色です.

print_ruler_font_height

目盛用フォントの高さ(実ドット数)です.

print_ruler_font_color

目盛用フォントの色です.

print_foreground_color

その他の線の色です.

print_background_color

画面背景色です.

print_fixedval_color

philips:IntelliVue から送られてくるPVCや pacing beat を示す縦棒の色です.

print_range_color

philips:IntelliVue から送られてくる calibration range や physiological range の色です.

● sa2cnf.txt

このファイルは SA2.exe が読むためのものです. SA2.exe はコンマ区切りテキストで書かれた週間予定表から症例を選び, そこに記された患者属性データを NV.exe へ渡すものです. 元になる週間予定表(べつに1日ごとでも良いんですが)のサンプルとして ADM¥sched.csv をメモ帳アプリケーションで開いてご覧ください. このようなファイルを麻酔(手術)予定表システムから定期的に出力して paperChart から参照できるようにしてください. このファイルは KS.exe が自動的に作ります.